

「岩戸支援学校のミッションについて」

校長 安藤 徹



5月になりました。入学式・始業式から約1か月がたとうとしていますが、特に新入生の皆さんは岩戸支援学校での新しい生活に慣れてきたでしょうか？もし、学校のこと友達のことなどで、心配なことや困っていることがあったら、どんなことでもよいので岩戸支援学校の先生に相談してみたいと思います。

さて、4月にお伝えしたとおり、今年度は岩戸支援学校が開校15年目を迎えることに加え、県立学校全校がそれぞれの学校の特色を生かし、4年を一つの区切りとして作成している「学校教育計画」（令和6年度～9年度）を新たに作成し、その初年度にあたります。そのことに合わせてすでに3月に神奈川県教育委員会より提示された今後4年間を見通した岩戸支援学校の「ミッション＝学校として果たすべき使命」についてここでご紹介したいと思います。

MISSION

今回新しく提示された岩戸支援学校の「ミッション」は次の内容です。

共生社会の実現に向け、**地域とともに**、**生徒の自立と社会参加**を目指して、一人ひとりの教育的ニーズに応じた教育を行う。

肢体不自由教育部門・知的障害教育部門の高等部特別支援学校として、**キャリア教育**や**就労支援の取組**を充実させ、**生徒一人ひとりの障がいの状態等**に応じた**進路選択・進路決定**を支援する。**医療的ケア**を必要とするなど、多様な教育的ニーズのある生徒の**教育活動全般**について、安全に実施する校内体制の整備をすすめ、個々の障がい及び健康等の状況に合わせた**専門性の高い指導**を実践する。

また、**センター的機能**を發揮し、**地域の各学校**における支援を必要とする**児童・生徒等**への教育的ニーズに応じた効果的な支援を行うとともに、これらの学校と**交流及び共同学習**等を通じた、**生徒の相互理解**を図る。

このミッションの中で特にこれからの岩戸支援学校の教育活動のカギとなる5つのことばにアンダーラインを引いてみました。まず、「共生社会の実現」「センター的機能」という2つのことばです。これは短期間でしかも学校だけで実現できることではありませんが、将来岩戸支援学校を卒業する生徒が地域社会の一員としていきいきと生活できるような学びを支援するだけでなく、学校として地域の「インクルーシブ教育」の推進役、そして地域における「特別支援教育のセンター的機能」を担いながら地域のそして神奈川県全体の共生社会の実現に貢献していきたいと考えています。そして3つ目に15年前の開校時から岩戸支援学校が一番大切にしてきた「キャリア教育・就労支援」についてですが、今後はこの取組みを今まで以上に現在の生徒一人ひとりの実態や課題に応じたものにしていくことが求められています。そして、生徒のより良い進路選択・進路決定につなげていけるようこれからも地域の方々や進路先の方々とのつながりを深めていきたいと思っています。4つめに「医療的ケア」ですが、これからも一人ひとりの生徒の個別の実態に応じた必要なケアについて安全安心を最優先に実施していきますが、そのために必要になるのは5番目に挙げている「教員の専門性の向上」ということになります。今後多くの教員が様々な研修受講や実際の試技などを繰り返し、学校全体の専門性の向上に努めていけるようにしていきたいと考えています。 令和6年5月1日